

フェイスタオルのテスト結果について

フェイスタオル（以下「タオル」という。）は、毎日の洗顔や洗髪後等に広く使われ、日常生活の必需品となっているが、近年、生地が綿だけでなく、マイクロファイバー（極細の合成繊維）等、多種多様なタオルが販売されてきている。

こうした中、綿とマイクロファイバータオルの吸水性の違い等について相談が寄せられていることから、タオルの吸水性能や使用性等のテストを行うとともに、県民の意識調査も行った。

テスト期間およびテスト対象品

- ◇ 平成27年12月～平成28年3月
- ◇ 県内のショッピングセンターや百貨店等で購入した9銘柄

テスト項目

家庭用品品質表示法等に準じまたは参考にして、①表示事項、②仕様、③吸水性能、④モニターによる使用性等のテストを行った。

テスト結果

- ◇ 家庭用品品質表示法等で定める表示事項は、全銘柄で適正に表示されていた。なお、綿100%の銘柄は「肌触り」や「糸の撚り方」などを、マイクロファイバーの銘柄は「吸水性」や「速乾性」をキャッチフレーズとする傾向があった。
- ◇ 吸水速度は繊維の組成（素材）による差があるとはいえ、乾燥時間はマイクロファイバーの方が短い傾向があった。保水量（生地が保つ水量）は生地の厚さに比例するが、繊維の組成による差はなかった。耐久性はマイクロファイバーの方が若干高い傾向があった。
- ◇ モニターによる使用性のテストでは、乾いた状態（顔拭きなど）で使う場合、生地が綿で比較的厚い銘柄の方が手触りが良く、評価が高かった。



消費者へのアドバイス

【購入時の留意点】

同じ素材であっても、銘柄によって厚さや手触りなどに特徴があるので、以下の項目を参考にするとともに、実際に手にとって確認し、自分の目的に合ったものを選択することが望ましい。

- ◇ マイクロファイバーの銘柄の多くは、「吸水性」や「速乾性」をキャッチフレーズにしているが、「吸水速度」や「保水量」は綿の銘柄と比べて大きな差があるとはいえなかった。ただし、乾燥時間が比較的短く、タオル地（糸がループ状になったもの）の耐久性が若干優れていた。
- ◇ 綿の銘柄の多くは、「肌触り」などをキャッチフレーズにしており、モニターテストでも顔拭き等で使う場合、生地が綿で比較的厚い銘柄の方が評価が高かった。
- ◇ タオルの品質向上と保持を目的に、独自の品質基準を設定し、表示している銘柄もある。

【使用時等の留意点】

- ◇ タオルは、肌触りや手触りなどをよくするために、ループ状になった糸を織り込んであり、強く摩擦したり、引っ張ったりすると糸が飛び出したり抜けやすくなるので注意する。
- ◇ 洗濯時には、洗濯ネットを使うとともに、風合いをたもつため（肌ざわりをよくするため）乾燥機の使用は避ける。また、干すときは十分に伸ばし、形を整えておくと手触りのよい状態を保つことができる。
- ◇ 柔軟剤の使用を避ける。（撚ってある糸が滑りやすくなり、生地から抜けやすくなるため）
- ◇ 糸が飛び出した場合は、無理に引っ張らずにハサミで切り取るとよい。
- ◇ タオルを止めたタグピンを取り外す場合、ピンの切れ端が生地に残らないように十分注意する。

[「フェイスタオルのテスト結果（概要）」添付](#)

フェイスタオルのテスト結果（概要）

1 目的

フェイスタオル（以下「タオル」という。）は、毎日の洗顔や洗髪後等に広く使われ、日常生活の必需品となっているが、近年、生地が綿だけでなく、合成繊維（ポリエステル等、化学的に合成された物質から作られた繊維）との混用やマイクロファイバー（極細の合成繊維）である等、多種多様なタオルが販売されてきている。

こうした中、綿とマイクロファイバータオルの吸水性能の違い等について相談が寄せられていることから、タオルの吸水性能や使用性等のテストを行うとともに、県民の意識調査も行った。

2 テスト実施機関

石川県消費生活支援センター

3 テスト期間

平成27年12月～平成28年3月

4 テスト対象品

県内の衣料品量販店、ショッピングセンター、百貨店などで購入したタオル9銘柄

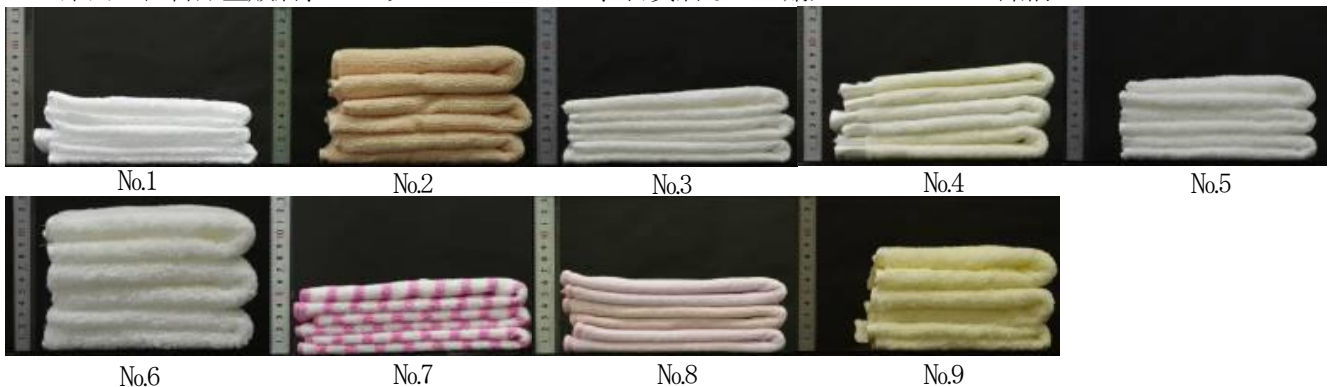


表1 タオルの表示・仕様等一覧

No	繊維の組成	実寸法 (cm)	重量 (g)	厚さ (mm)	かさ高性 (cm ³ /g)	生産国	価格 (円)
1	綿 100%	34.1×84.7	62.8	1.66	7.64	日本	127
2	綿 100%	33.3×79.4	96.7	4.09	11.17	インド	290
3	綿 100%	33.4×78.7	85.9	2.65	8.11	タイ	321
4	綿 100%	35.3×79.8	105.2	4.01	10.75	日本	597
5	綿 100%	35.2×74.0	75.9	2.72	9.32	日本	1,080
6	綿 100%	34.9×79.4	106.4	5.91	15.39	タイ	1,512
7	ポリエステル80%、ナイロン20%	33.8×79.2	68.8	2.35	9.12	中国	240
8	ポリエステル85%、ナイロン15%	33.3×78.1	112.5	2.87	6.63	中国	537
9	綿90%、ポリエステル10%	33.8×80.7	111.3	4.24	10.40	日本	1,188

5 テスト項目およびテスト方法

家庭用品品質表示法繊維製品品質表示規程（以下「表示規程」という。）や日本工業規格（以下「JIS」という。）等に準じ、または参考にしてテストを行った。

6 テスト結果

(1) 表示事項

ア 表示事項

タオルのタグとパッケージに表示されている主な事項を表2に示した。

表2 タオルのタグ、パッケージでの表示事項

No.	表示規程		任意表示					
	繊維の組成	表示者名等	生産国	取扱い上の注意	サイズ	取扱い絵表示	ブランド名等	検査・検針済
1	◎	◎	◎	◎	○	◎		
2	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
3	◎	◎	◎	◎	○	◎		
4	◎	◎	◎	○	○		●	●
5	◎	◎	◎	○	○		○	●
6	●	◎	○	○			●	
7	◎	◎	◎	◎				
8	◎	◎	◎	◎	○	◎		
9	●	◎	◎	○			○	

※◎はタグ、パッケージ両方に表示、●はタグのみに表示、○はパッケージのみに表示

表示規程で義務付けられている「繊維の組成」や「表示者名等」（氏名または名称、住所または連絡先）は、タグとパッケージを合わせて全銘柄で適正に表示されていた。

また、任意であるが「生産国」および「取扱い上の注意」は全銘柄で、「サイズ」は6銘柄で、「取扱い絵表示」（洗濯を行う場合等の取扱い方法を表示したもの）は4銘柄で表示されていた。

なお、メーカーが独自に設定した品質基準を満たす製品は4銘柄あり、これら4銘柄はすべて「ブランド名等」が表示されていた。「検査・検針済」は2銘柄で表示されていた。

この他、綿100%の銘柄では「肌触り」や「糸の撚り方」などを製品のキャッチフレーズにしているものが多いのに対して、マイクロファイバーの銘柄では、「吸水性」や「速乾性」をキャッチフレーズにしているものが多かった。

イ 「取扱い上の注意」の主な内容

タオルのタグとパッケージに表示されている「取扱い上の注意」事項については以下のとおり。

「単独洗い（別洗い）する」「毛羽落ちする」は全銘柄で表示され、「柔軟剤を使わない」は8銘柄で、「乾燥機の使用は避ける」「くず取りネットを使用する」「漂白剤（塩素系）を使用しない」は5銘柄で、「洗濯ネットを使用する」「濡れたまま放置しない（すぐ干す）」は4銘柄で表示されていた。

その他、「蛍光洗剤（蛍光増白剤）を使わない」「糸（パイル）は引っ掛けや引っ張りで抜けやすい」「シールを剥がしたりするときに、糸抜けに注意する」「洗濯後十分伸ばして干す」は3銘柄で、「使用前に洗濯する」「強く摩擦したり、もみ洗いしない（糸抜けするため）」「抜け出している糸は切るとよい」は2銘柄で表示されていた。

(2) 仕様

- ・ 価格は1枚当たり127～1,512円で、価格差は約12倍であった。
- ・ 寸法はどの銘柄でもほぼ同程度で、約33～35cm×約74～85cmであった。
- ・ 重量は1枚当たり62.8～112.5gで、約2倍の差があった。
- ・ 厚さは1枚当たり1.66～5.91mmで、約4倍の差があった。
- ・ 密度は1枚当たり217.3～432.7g/m²で、約2倍の差があった。
- ・ かさ高性（ボリューム感）は1枚当たり6.63～15.39cm³/gで、約2倍の差があり、かさ高性と厚さには比例関係が認められた。
- ・ 繊維の素材を調べたところ（繊維鑑別）、全銘柄で組成表示どおりであった。

(3) 吸水性能等

各銘柄の吸水速度や乾燥時間、保水量、パイル（ループ）の保持性について表3に示した。

表3 タオルの吸水性能等一覧

No.	厚さ (mm)	吸水速度		乾燥時間	保水量 (g)	パイルの保持性 (%)
		沈降法(秒)	滴下法(秒)			
1	1.66	2.3	1以内	255分(4時間15分)	148	62.8
2	4.09	1以内	1以内	310分(5時間10分)	304	96.4
3	2.65	2.7	3.5	275分(4時間35分)	223	68.0
4	4.01	1以内	1以内	380分(6時間20分)	308	91.4
5	2.72	1.2	1以内	265分(4時間25分)	132	81.1
6	5.91	1以内	1以内	360分(6時間00分)	303	89.9
7	2.35	60以上	1以内	210分(3時間30分)	143	90.6
8	2.87	60以上	1以内	135分(2時間15分)	297	95.9
9	4.24	1以内	1以内	340分(5時間40分)	288	89.0

ア 吸水速度

表3に示すとおり、沈降法（試験片が水に沈む速度）によると、綿および綿主体の銘柄（No.1～6、No.9）が5秒以内に沈降したが、マイクロファイバーの銘柄（No.7、8）は60秒経過しても沈降しなかった。

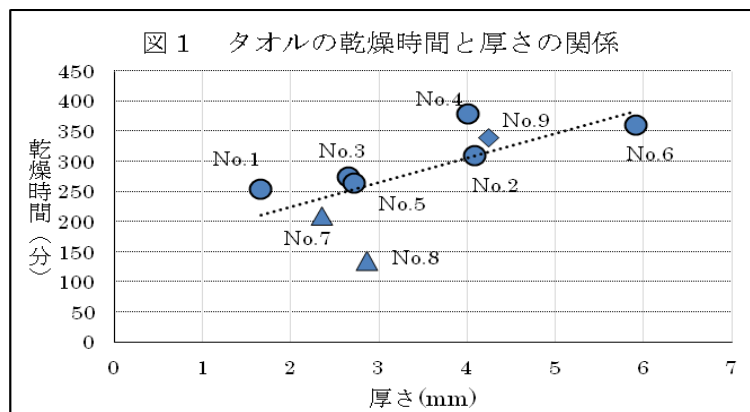
滴下法（滴下した水滴が試験片に吸収される速度）によると、8銘柄で1秒以内、1銘柄（No.3）で数秒以内であり、繊維の組成による差はみられなかった。

なお、吸水速度についての法的な品質基準はないが、関係業界で定めている自主品質基準の一つである今治タオル認定の品質基準では、沈降法で「5秒以内に沈降」とされており、沈降法の基準を満たさないときは、滴下法で「1秒以内に吸水」とされている。

イ 乾燥時間

図1に示すとおり、生地が厚いほど乾燥時間が長くなる傾向があった。

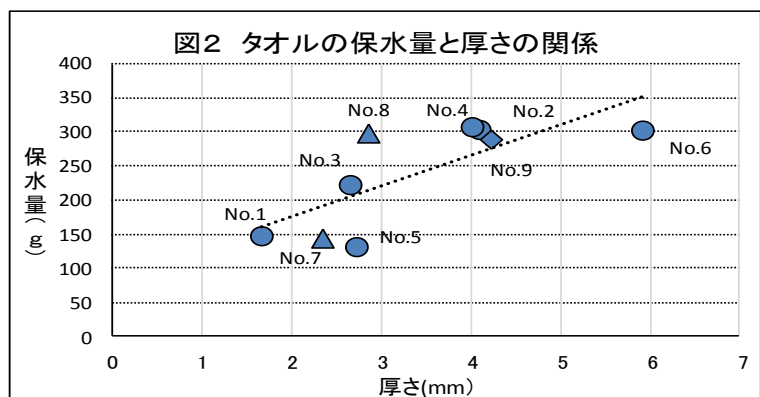
なお、マイクロファイバーの銘柄（No.7、No.8）は、綿の銘柄に比べて、乾燥時間が短い傾向があった。



ウ 保水量

保水量は一度に吸水できる量を示しており、図2に示すとおり、生地が厚いほど保水量が多くなる傾向があった。

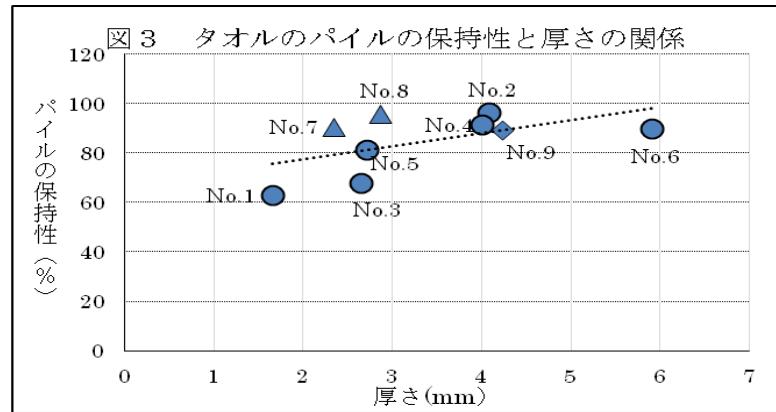
マイクロファイバーの銘柄には「高吸水性」などのキャッチフレーズが使われているが、保水量では、綿とマイクロファイバーなど繊維の組成による差は認められなかった。



エ パイルの保持性（耐久性）

図3に示すとおり、生地が厚いほど保持性（耐久性）が高くなる傾向があった。

また、マイクロファイバーの銘柄（No. 7、8）は、綿の銘柄よりも若干保持性が高く、耐久性に優れている傾向があった。



(4) モニターテスト

6人のモニターにより、タオルの使用性等のテストを行った。

ア 「用途・使用目的」の評価

タオルを乾いた状態（顔拭き、手拭きなど）で使う場合、評価が高かったのは、生地が綿で比較的厚い銘柄（No. 5）であり、評価が低かったのはマイクロファイバーの銘柄（No. 7、No. 8）であった。

タオルを濡れた状態（身体洗いなど）で使う場合、評価が高かったのは、生地が綿で最も薄い銘柄（No. 1）であった。

イ 「手触りの良さ」および「絞りやすさ」の評価

「手触りの良さ」（乾いた状態）で評価が高かったのは、生地が綿で比較的厚い銘柄（No. 6）であった。

「絞りやすさ」（濡れた状態）で評価が高かったのは、生地が綿で最も薄い銘柄（No. 1）であった。

ウ 絞り率（水を十分含ませて絞った後のタオルの水分残存量を元の乾いたタオル重量で割った%値）

絞り率が最も小さかったのは、生地が綿で最も薄い銘柄（No. 1）であり、絞り率が小さいほど生地が薄い傾向があった。

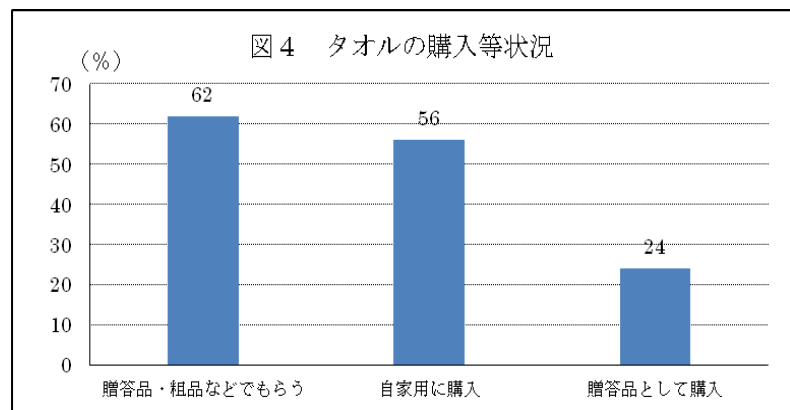
(5) タオルの意識調査

ア 回答者の年代別、性別

回答者は117人で、年代別では40代が21%と最も多く、30代、60代、70代が17%、50代11%であった。性別では女性が83%を占めた。

イ タオルの購入等状況

図4に示すとおり、「贈答品・粗品などでもらう」が62%と最も多く、次いで「自家用に購入」56%、「贈答品として購入」24%の順であった。



ウ 購入先

自家用の場合、「ショッピングセンター」が49%と最も多く、次いで「百貨店」、「衣料品の量販店」の順であったが、贈答品用の場合、「百貨店」が68%と最も多く、次いで「ショッピングセンター」、「衣料品の量販店」の順であった。

エ 購入選択条件

自家用の場合、「肌触り、手触り」が80%と圧倒的に多く、次いで「吸水性」、「価格」、「乾きやすさ」の順であったが、贈答品用の場合も「肌触り、手触り」が69%と最も多く、次いで「ブランド」、「デザイン」、「価格」の順であった。

オ 使用前の洗濯

「洗濯」するが71%を占め、「そのまま」使用が26%であった。

カ タオルに対する不満

図5に示すとおり、「糸のほつれ、繊維の飛び出し」が41%と最も多く、次いで「吸水性が悪い」37%、「肌触りが悪い」13%、「乾きが悪い」5%の順であった。

キ タオルとして使えないの判断

「見栄えが悪くなる」が39%と最も多く、次いで「肌触りの変化」、「吸水性の低下」、「破れ」の順であった。

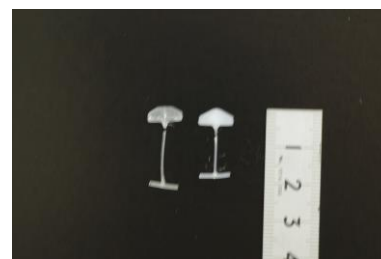
ク タオルの使用後

「ぞうきんなどに再利用している」が90%と、ほとんどの人が再利用すると回答していた。

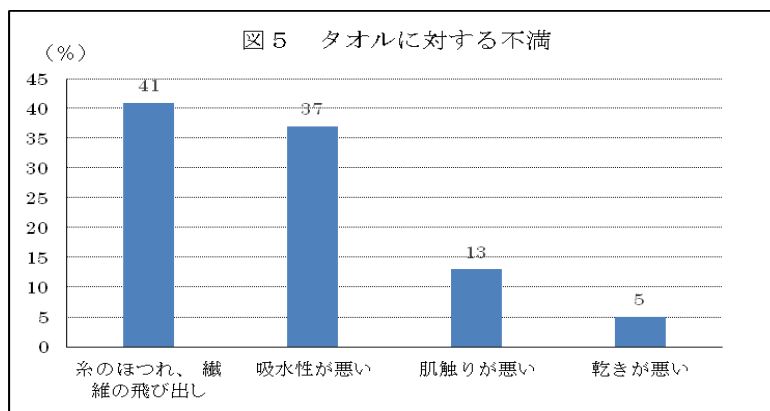
(6) その他（包装方法等）

5 銘柄で透明のタグピンを使用しており、タオルから取り外した時、ループした糸にからまってピンの切れ端が生地に残った場合に発見しにくく、顔や手などへの怪我が考えられる。

このため、業界には、色付きのタグピンを使用するか、タグピンの両端を粘着テープで固定して飛散防止策を講じるなどの対策が望まれる。また、消費者には、タグピンを取り外す場合にピンの切れ端が生地に残らないように十分注意する必要がある。



(写真) 透明タグピン



8 消費者へのアドバイス

性能テストや意識調査等の結果から、消費者がタオルの購入時や使用時等に留意する主な点は次のとおり。

[購入時の留意点]

同じ素材であっても、銘柄によって厚さや手触りなどに特徴があるので、以下の項目を参考にするとともに、実際に手にとって確認し、自分の目的に合ったものを選択することが望ましい。

- ① マイクロファイバーの銘柄の多くは、「吸水性」や「速乾性」をキャッチフレーズにしているが、「吸水速度」や「保水量」は綿の銘柄と比べて大きな差があるとはいえなかった。ただし、乾燥時間が比較的短く、タオル地（糸がループ状になったもの）の耐久性が若干優れていた。
- ② 綿の銘柄の多くは、「肌触り」などをキャッチフレーズにしており、モニターテストでも顔拭き等を使う場合、生地が綿で比較的厚い銘柄の方が評価が高かった。
- ③ タオルの品質向上と保持を目的に、独自の品質基準を設定し、表示している銘柄もある。

[使用時等の留意点]

- ① タオルは、肌触りや手触りなどをよくするために、ループ状になった糸を織り込んであり、強く摩擦したり、引っ張ったりすると糸が飛び出したり抜けやすくなるので注意する。
- ② 洗濯時には、洗濯ネットを使うとともに、風合いをたもつため（肌ざわりをよくするため）乾燥機の使用は避ける。また、干すときは十分に伸ばし、形を整えておくと手触りのよい状態を保つことができる。
- ③ 柔軟剤の使用を避ける。（燃ってある糸が滑りやすくなり、生地から抜けやすくなるため）
- ④ 糸が飛び出した場合は、無理に引っ張らずにハサミで切り取るとよい。
- ⑤ タオルを止めたタグピンを取り外す場合、ピンの切れ端が生地に残らないように十分注意する。